



なる

Aブロックにエントリーされた全12作品を公開します。

覇者となったのは果たして誰??

<http://www.columnland.net/> にてごらんください。

変化する物

幼稚園の頃から始めたピアノ

レッスンのために毎日練習して

何時もいい音を出してくれた私のピアノ

←

今は家のインテリアとなる

毎日高校までの通学電車で

朝の眠さに耐えるように聞いていたMD

←

進化する音楽プレーヤーの時代の波にのって

その役目はiPodとなる

中・高と一緒に部活してきた友達
常に騒ぎあっていた仲

←

いつの間にか立派な大学生となる
大人っぽくなっていてびっくり

大学になって

生まれて初めてまともに

スポーツを始める

←

新しい自分になるために

たんぽぽ

ゴールデンウィークに田舎に帰省した私は、たんぽぽを見た。春の初めのほうでは、空き地をいちめんの菜の花畑のように黄色く彩ってくれるのだが、このころになると花は無くなって、種つきの白いわたになってしまう。物好きにはこうなったたんぽぽもまた趣があつて風情を感じるらしいが、見慣れてしまった田舎人にとっては美しさなど微塵も感じられず、飛んでくる胞子が衣服に付着して迷惑なだけである。しかも地面を這っている葉は緑色から茶色っぽい色に変わってしまい、興ざめだと私は感じる。

しかし、ちよつと立ち止まって考えると、このバッチイ種が来年の新たな黄色になっていることに気づいた。こんなことは小学校で習っていたにもかかわらず、どうして気づかなかつたのだろうかと甚だ疑問であつた。

こんなことを考えていると、「万物は流転する」というフレーズを思い出した。どこで聞いたのか氣になつて、ネットで検索をかけてみたところ、古代ギリシャの哲学者ヘラクレイトスの言葉だつた。彼によると、万物は「ある」ものではなく、反対物の対立と調和によって不断に「なる」ものであり、その根源は火であるらしい。

最後の根源が火だという部分は、現代を生きる私たちにとっては賛同し難い。しかし、この日に見たたんぽぽに関しては、かなり合点があつた。ヘラクレイトスは紀元前540~480年ごろの人らしいが、私は「こんな昔にすごいことを考えたな」と畏敬の念を抱いた。

ここで私はいろいろなものに彼の言があてはまっているのかを考えた。大抵の物にはあてはまっているようだつた。古代ギリシャには無かつたであろう「デジタル」なるものも「アナログ」との対立と調和となつていた。しかし、自分自身というものは、ぴったりの反対物が見当たらなかつた。性別や性格、フサフサと禿など一面的には反対物があるが、全体の反対物がなかつた。

苦し紛れの結論は、「昨日の自分」だつた。これも完全な反対物ではないが、「対立と調和」にはあてはまっている氣がする。これからどのように流転するかが見物である。

気になる君

君に会うため北へ向かう。

二日続いた雨もやみ、嘘みたいに夏晴れだ。

神様サンキュー！電車に乗りこむ。

ヘッドフォンから君の声。

どれだけ待てばいいのかな？

金曜の夜は暇だから電話して！

落ち込んでるんだけど、励ましてよ……。

ホント、深みがないなあ。

なんか眠そうだけど、疲れてる？

気にせず休んでいいよ。

……。

次は終点。

ハッと起き、電車を降りた。

駅からさらにバスに乗り換えて三十分。

ようやく待ち合わせ場所に着いた。

君が手を振り、やってきた。

俺は人ごみをかきわけて、君に向かっていった。

九ヶ月ぶりの君の声。

直接響く君の声。

冷たい手に触れる君のあったかい手。

もっと声を聞いていたい。

君の音楽に触れていたい。

けど、

楽しい時の時間の針は、

いつもいつも急ぎ足。

もうさよならを言う時間。

やってない曲いっぱいあるよ！

でもそれが君の出した答えなんだよね……。

君の声がループして、消えてゆく……。

いつものように目が覚めると、

うるさい蟬の声はやみ、季節外れの風鈴だけが鳴る……。

ナルは海岸を歩いていて、日課としてゐるわけではないのだが、嫌なことがあったときは、こうして海岸線をぶらつくのだ。ナルは何かと周囲とトラブルを起こし、いつも一人でいる。ナル曰く、自分は正論を言っていて、悪いのは向こうということらしい。

ぽーっとしながら波の満ち引きを眺めていると、足に何かがあたった。足元を見てみると、赤燈色のピンがあった。手に取って振ってみると、カラカラと音がする。蓋を開けて中身を取り出すと、何も書いてない一枚の便箋だった。ナルはしばらく白紙の文面を見ていたが、やがて胸元からペンを取り出すと、普段は言えないような事を綴った。

「この手紙を見た君 君はほんと友達になるべきだ

魂がどこにあるのか 花は何故こんなにも美しいのか

星はなぜ、輝きを放つのか——ぼくの答えをきくと 君は氣に入るはずだ」

そして瓶に詰めて、栓をしつかり締めると、ナルはそれを海に投げ込んだ。

ナルは海岸を歩いていて、必要以上に遠視しているが、どこかで期待している自分もいて、妙に落ち着かない気分だった。しばらく何気ない素振りで行っていると、やがて岩場の隙間にピンを見つけた。蓋をあけると、青色の便箋が一つ入っていた。そこにはとても綺麗な字で、たった一言だけ言葉が添えられていた。

「あなたの言葉は 自分勝手でもたまさしいわ

世界はあなたの 独りよがりでは出来ていないのよ」

ナルは憤慨した。心の奥の奥を、深く抉られたような気がした。それを誤魔化そうとして、その下に乱暴に書きなぐった。

「なるほど ならば君に従おう

魂がどこにあるのか 花は何故こんなにも美しいのか

星はなぜ、輝きを放つのか——君の答えをきくと ぼくは氣に入るはずだ」

そして瓶に詰めて、栓を力いっぱい閉めると、ナルはそれを乱暴に投げ込んだ。

ナルは海岸を歩いていて、苦虫を噛み潰したかのような顔だった。この何日かは、ずっとイライラしていた。いや、以前から苛立ち、それ自体はあったのだが、今回は、自分の根元をぐらぐらと、揺さぶられているような感じがあるのだ。

さして探すこともなく、ナルはピンを見つけた。中には前とはまた違う、今度はピンク色の便箋が一つ入っていた。ナルはハントと、鼻を鳴らしてそれをひろげた。卑屈にへりくだって、相手のバケの皮を剥いでやるつもりだった。しかし、彼の予想と、手紙の内容は違った。

「あなたの言葉は とても押しつけがましいわ

世界はあなたの ものでもないし もちろん私のものでもない

だからこんなにも 素晴らしいものなのじゃないかしら？」

……ナルは何も言えなかった。自分があまりに、惨めに思えた。強がりも屁理屈も、もうこの相手には使いたくなかった。ナルは一旦町中に走り、便箋を買うつと、丁寧な字で、文字を綴った。

「あらためて ほんと友達になってほしい

魂がどこにあるのか 花は何故こんなにも美しいのか

星はなぜ、輝きを放つのか——二人で答え合わせしよう

——答えが違ったらそのときは 二人で答えを探そう」

投げ込んだ瓶は今までと違った、澄んだ音をたてて、海に飛び込んでいった。

ぼくは海岸を歩いている。相変わらず周囲とトラブルを起こしてはいるが、一人でいることは少なくなった。いつもどおり赤燈色のピンを探していると、ふと後ろから声をかけられた。振り返ると、その人の手の中に——

ナルシスという人物をご存知だろうか？

ギリシヤ神話に登場する少年の名前である。

ナルシストという言葉の語源であることは有名な話かもしれない。

彼に關しての神話は次のようなものだ。

森の妖精のひとり、エコーがナルシスに恋をした。しかし、エコーはヘラに、自分では口がきけず、他人の言葉を繰り返すことしかできない呪いをかけられていたので、ナルシスの言葉を繰り返す以外、何もできなかった。それを、ナルシスは「退屈だ」としてエコーを見捨てた。エコーは悲しみのあまり姿を失い、ただ声だけが残った。これを見た復讐の神ネメシスは、他人を愛せないナルシスに、ただ自分だけを愛するように呪いをかけた。

そして、ある日ナルシスが水面を見ると、中に美しい美少年がいた。それは、呪いをかけられたナルシス本人だった。ナルシスはひと目で恋に落ちた。そしてそのまま水の中の美少年から離れることができなくなり、やせ細って死んだ。ナルシスが死んだあと、そこには水面を覗き込むように頭をたれた格好のスイセンの花が咲いていた。

：なんとも悲劇的な話ではないですか。

彼、なんか悪いことしました？

他人を愛せないから自分しか愛せないようにして殺しちゃうって、

ペナルティーとして重過ぎません？

まあ、鏡でも持ってれば水面から離れられたけどね。

：それはおいといて、

自分のために死んでるってすごくない？

「君のためなら死ぬる。」とか、ベタな感じのセリフがあるけど、

彼は宣言もせず自分のために死んでるからね。

なんかすごいような気がしてきませんか？

今、ナルシストっていうとなんかイメージ悪いけど、

元をたどると、すごいところが語源になってるよ。

鏡を見た瞬間に身動きが取れなくなつて、弱つて、死んじやうような人に会ったことねえよ。

ナルシストの皆さん。

自分にほれ込んで死ぬ覚悟はおありですか？？

子どもに戻りたい大人、大人になりたくない子ども

「成人」という言葉がある。「人」（一人前）に「成る」という意味だろう。成人式なる儀式をぐりぬけて、立派な社会人になるかと思いきや、今の日本人はそうでもないらしい。なにせ「子どもに戻りたい」とぼやいている大人がやたらと多いらしいのだ。一人前になったということは誇らしいことであるはずなのに。

他方では、子どもは大人にはなりたくないらしい。もともとは、子どもというのは周りにいる大人に憧れて「早く大人になりたい」とかなんとかいって無駄に遊びまわって少しづつ成長していくはずなのに、今の子どもは成長することを拒絶する。もちろんすべてではないだろうが。要するに周りに魅力的な大人がいないのだろう。

子どもに戻りたいという大人の多くは、就職して仕事をやるのはいいが、その仕事がつまらない、やりたい仕事ができない、などと愚痴をつけて、まだ自由だった子どものころに戻りたいと言っているのらしい。ただ、それを聞くと、それを言っている大人がまだ子どものように感じる。目の前に立ちはだかっている壁を乗り越えようとせず、現実逃避を試みているのだから。一人前がやるようなことじゃない。そのような人は、すぐ言い逃れをして責任転嫁するだろう。きつと二十歳を超えても根は子どもだろう。

すると、二十歳を超えていない子どもが大人になりたくない意味がわかるような気がする。彼らは、大人を「一人前になる」ではなく「二十歳を超えている」という定義として見ている。要するに、

「大人になりたくない」 Ⅱ 「いい年食ってまだ子どものような人間には到底憧れをもてない。だから、あんな人間にはなりたくない」

「子どもに戻りたい」 Ⅱ 「もう大人相応の年であるのに大人になりきれていない自分が切ない。だったら年も戻って子どものまま生活したい」

ということになるだろう。

きつとこのままでは日本から大人がいなくなることだろう。

為せば成る。

子どもとして、子どもに憧れられるような大人になりたいなあ。

UZUMAKI

くるくる、くるくる……。なぜかいつい回したくなってしまう、白地に赤の渦巻き。あんまり乗らないからか。まあ乗らなくはないけど、ラーメンならともかく、うどんには正直カマボコの方が合うと思う。麺も他の具材もなくなり、一人だけ置いていかれる形となった一枚のなるをと、俺はいつものように箸で回していた。

「——いつも、そうやって回してるよね」

十月半ばの、そんないづもどおりの昼休み。突然降ってきたそんな聞き慣れた声に、ふと箸を止めて顔を上げる。そして、机を挟んだ向かい側に、よく見知った顔がお盆を持って佇んでいるのを認め、軽く打った鼓動とともに、こんちは、と俺は軽く会釈をした。

「それ、楽しいの？」

目の前の席に腰掛けながら、楽しそうに先輩は訊いてきた。訊いて、俺の返答を待たずに自分のうどんのなるをと回し始める。——可愛いな。そんなことを思いながら見ているこちらにも気付かず、先輩はなるとを一通り回し終えたと、はい、とそれを俺に寄越した。

「や、別にいらんすよ……？」

「いいから。あたしが食べ終わるまで、それでも回して待ってよ」

自分のまだあるんですけど、という言葉、俺は自分のなると一緒に飲み込むことにした。そして言われたとおりに新しいなるとを回しながら、対面の顔を覗き見る。

——ふと、トンボ捕りを思い出した。トンボの前で指をくるくるやつて様子を窺い、チャンス一発で捕まえる。それに似てなくもない。違うのは、トンボが綺麗すぎるのか……。

「あの……先輩」

最後の麺を汁と一緒に流し込み、井を口から話した先輩に向けて、ゆっくりと口を開く。なに？と微かに首をかしげる仕草に思わず唾を飲み下して、俺はさらに続けた。

「約束がなかったら、でいいんですけど、その——文化祭、俺と回りませんか？」

微笑がどこかへ消え、きょとんとした表情があとを継ぐ。ミスったかな、と抑えていた内心が動揺を始め、俺は言い訳するような口調でさらにボロボロと続けてしまっていた。

「や、なんていうかほら、文化祭終わったら先輩、部活は引退しちゃうし、受験で忙しくなるし、したらもうあんまり会えなくなるし……。だから、つてわけでもないけど……」

だからと言え、だからかもしれない。受験勉強の最中にこんなことを言うのは迷惑だろうし、それじゃ意味がない。でも、なんの脈絡もなく面と向かって言えるほどの勇氣もなく。だから、お祭りの華やかな空気の力を借りて、伝えたいと思ったただけだ。

——先輩の、支えになってもいいですか？と……。

落ち着いて、俺は先輩の返答を待つ。やがて——ふっと、先輩は再び微笑った。

「よかった」

今度は、俺がきよとなる番だった。そんなこちらの反応を楽しむように、先輩はゆっくり井を傾けてうどん汁を啜ると、空になったそれを置き、頬杖を突いて俺を見た。

「あたしね……ホントは今、それを訊きにここ来たんだ」

伸びてきた箸が俺のなるとをつまむ。そして、なるとはそのまま先輩の口の中へ。それを口に含んだまま、じゃあねと、先輩は綺麗な笑顔を見せると、井を持って歩いていった。彼女を見送りながら、俺は箸を握りしめていた。

——やっぱ、カマボコよりなるとだ。そんなことを、熱を持った頭でぼんやり思った。

空

◆
 湿気を感じさせないからとした風が僕を包んでいる。雲ひとつない文句なしの快晴。自然と足が浮いてしまいそうな心地よさだ。遠くには山々がぼんやりと退屈そうに立っているのが見える。それに比べて近くはとても忙しそうだ。慌てふためく通行人。鳴り響く車のクラクション。どうしたのだろう。こんな気持ちいい日にはなごむに限る。苛立つのは不快なときだろう？——でも、そういつていられないのはきつと僕のせいだろう。今、僕が風を感じているのは実際に僕が空を飛んでいるからで、彼らが慄いているのは街のど真ん中に僕の死骸が広がっているからであるから。きつと彼らにはビルのせいで風なんて感じないし、空なんて見えないんだろう。なんて哀しい連中だ。自分の造った城に閉じこもって、ひたすらに自然の存在を隠そうとしている。

◇
 数分前、僕は空気になった。ビルの屋上から飛び降りて。つまり人間であることの息苦さに僕はうんざりして、不自由で最も汚らしい地上から抜け出したのだ。本当は空で死にたかったんだけど、僕が行けたのはせいぜい地上につながっているビルの上だった。日頃大気の動きを邪魔している忌々しいビルを使うのはしゃくだけど、そんなのは小さなことだ。普段考えることのない重力加速度を大いに感じて、僕は地球の強大さに改めて愕然とした。自分はいかに無力だ、と。でもそれもさつきでおしまい。洗礼を受けた後、僕はしっかりと地球の一部になっている。地球の味方になったのだ。空気は全世界につながっている。つまるところは自由。大いなる母の懷でゆつくりと時を過ごすことにしよう。

◇
 しばらく浮かんでいると体が熱くなってきた。体の芯から湧き出てくる高熱。苦しい。どうしてだ。視界が赤くなってくる。こんなはずは……。体が溶けていくようだ。いや、正確に言えば魂が溶けていく感覚。心が死んでいく。ああ、もう一度死ぬのか。せつかく薄汚れた世界から脱したっていうのに……。遠のく意識のなかがついたことがあった。

(空気が……黄色い……?)

◇
 一面は雨。大陸の農村の夕方は静かに終わろうとしている。あの工場を除いて。煙突からは絶え間ない煙。その周囲で晴れ渡る空を見たことのある者など存在しないだろう。空はどんよりと深く、厚い雲の層に覆われて、仲間の死を嘆いていた。

ちよいと寂しいお話

もうちょっとで二十歳だけど・・・

二十歳ってやっぱし「大人」ってことだよなー

大人になってやりたいこともあるけどさあ

なんか「二十歳にはなりたくないなあ」
と思う

そういう人ってけっこういる？

29歳から30歳を向かえる人は気持ちの90%くらいは「悲嘆」って
かんじなんだろうけど、19歳から20歳の人は「希望?」、「不安?」、
「寂しさ?」・・・・・・「全部?」

トクになしの人もいるよね

今って、小学生にとつての昼の3時くらいかな?

『友達と遊んでいられる時間があと少ししかない..』

って思うあの時間?

それとも、幼稚園児にとつての夕方4時くらい?

『アンパンマンまだー?』

『まだアンパンマンまで1時間あるわよ。』

っていうあの時間?

もう朝まで遊んでいられるし

大事にしたアンパンマンもアルバムの中にしか現れない

自分は、知らないうちに大人に近づいている・・・

天敵——朝

朝7時。とても気持ちが良い。暖かいぼんやりとした空気に包まれている。ここから出たくない。ん？どこか遠いところだなにかが鳴っている。その音がだんだんとハッキリしてくる。でも、何が鳴っているのかは分からない。ピピッ、ピピッ……だつて、なんだろうね、この音は。で、急に気がつく、これが目覚ましの音だつてことに。そして慌てる。鳴り始めてから15分も経ってしまった。でも、これはましな方だ。40分寝坊なんて日常茶飯事。目覚ましはもちろん音量MAXで鳴らしている。しかも5回くらい。これでも起きられないんだから、もうどうしようもない。ハッキリ言つて電池の無駄。じゃあ、誰かに起こしてもらえば？つてよく言われるけど、我が家はそんなに甘くない。うちの親は起こしてくれない。何年か前、起きたら9時を過ぎていた。兄弟は遅刻せずに学校へ行っていた。慌てて部屋から飛び出して、キッチンへ行くと、「あら、まだいたの？」だつて。冗談じゃない。ココにいて良い訳がないだろう！というわけで、基本早起きするのは苦手です。朝は天敵なんです。

電子音じゃ起きられないことが分かったから、何か衝撃のある音を鳴らそうと試みた。この方法はなかなか良い。朝起きられなくて悩んでいる方は是非お試しあれ。ただし、この衝撃的なサウンドにも5日も経てば慣れてしまうので、そう長続きはしないという事もお忘れなく。

用意するものは、①ケータイ（壊れるの覚悟で）、②壊れにくいもの数個（ただしぶつかり合つて音が鳴るもの）、③クッションや毛布。まずは①のアラームをセットして下さい。そこで大事なのがパイプも鳴るように設定すること。次に、①をベッドの側の台（棚つていうのかな。地面から自分の膝くらいの高さの物が適当）の上に載せます。その時重要なのは、ケータイの半身（？）しか台に乗せない事。最後にケータイの上に、②を乗せます。最後にケータイ予想落下地点に③を置きます。これはケータイ保護のため。後は寝るだけ。設定時刻になるとパイプの振動で全てが落ちて激しい音がする、という仕組み。私は②として、某有名輸入雑貨店Pで購入した、4つセットのアヒルの計量カップを利用した。軽くて壊れにくく、この目覚まし時計に最適であると思つているのだが、どうだろうか。

ケータイが壊れるかもしれない、という大きなリスクを負っているのだが、この音が鳴るとホントにビックリして目覚めるのだ。心臓に悪い感じの音で、寿命が縮むような気がするが、朝から猛ダッシュで駅へ向かつて走ると、どちらが身体に悪いかといえれば後者の方が悪いだろう。それに、朝ごはんはちゃんと食べた方がいいにきまっている。だから、この方法をお薦めしているのです。

実際、こんな目覚し時計を編み出す時間があれば、寝ればいいのだ。最近になってようやく、朝に立ち向かうためには、要領よく生活しなるべく睡眠時間を確保する事だということを学びました。それから、あきらめて遅刻をするということも。

中高生の日

なるんじやねえ なるんじやねえ
 まだ朝なんか なるんじやねえ
 人が気持ちよく 寝てるんだから
 目覚まし時計 なるんじやねえ

なるんじやねえ なるんじやねえ
 携帯電話は なるんじやねえ
 満員電車 静かな教室
 マナーモードも なるんじやねえ

なるんじやねえ なるんじやねえ
 授業チャイム なるんじやねえ
 唯一の楽しみ 体育の授業
 先生そんなに どなるんじやねえ

なるんじやねえ なるんじやねえ
 お腹の音も なるんじやねえ
 弁当になるまで もう少しだから
 早くチャイムよ なってくれ

なるんじやねえ なるんじやねえ
 放課後なんか なるんじやねえ
 部活は疲れる 塾はめんどい
 親も鬼に なるんじやねえ

なるんじやねえ なるんじやねえ
 夜になんか なるんじやねえ
 宿題、レポート やること沢山
 まだまだ眠く なる・ん・じや・
 Zzz

課題。

なるようにならないと、困ります。

明日、
じゃなくて今日提出の課題に、まだ手つかずの自分。

現在午前3時です。

コンテスト結果				
[Aの部]				
コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
A01	変化する物	3 pt	9 位	0 sp
		各パラグラフがバラバラのようできて、音・高校・大人……とゆるやかに意味がつながってゆく、そのなだらかさがこちよく読めました。 前向きにしめくくったのもいい読後感で、晴れて表紙ゲットです。		
A02	たんぼぼ	3 pt	9 位	0 sp
		ヘラクレイトスを足場に、昨日のたんぼぼ/今日のたんぼぼ、昨日の自分/今日の自分、止まっている物は存在しない、だから「ある」ではなく「なる」なのさ、という論理展開が説得的でした。まさにお題にジャストミートの哲学思考。 ラストが惜しい。ミモノなんてひとごとのようではなく、もっと自分の決意として語りたかった。		
A03	気になる君	0 pt	11 位	0 sp
		うーん、TA一同、7～8人がかりで考えるも謎。コンサートに出かけたって話なのかなあ、という結論になりましたが、さて。 使われている言葉は親しみやすいのに、状況がほとんど見えて来ないのです。実体験をもとに起こしたから、自分だけが分かる部分が多くなってしまったのか?? 作者さん、求む解説。 イチオシフレーズ：「ホント、深みがないなあ」		
A04	NARR ～愚か者が夢中になること～	6 pt	8 位	1 sp
		ファンタジックな寓話。便箋ごしの会話という間接的なやりとりが、お互いに考える間（ま）を保っているようで、すうっと気持ちがなごみます。白から青色、ピンクと色が変わる効果は絵本的でもあって。 ときにナルはナルシストのナルでしょうか。 特別賞：ナルシーから脱皮で賞		
A05	ナル	21 pt	1 位	1 sp
		「自分のために死んでるってすごいな」という問いかけに深一くうなづいてしまいました。自己犠牲と真逆の、逆転の発想がこちよく刺激的。 蘊蓄と主張がバランスよく配されて、得た気分の読後感。首位をさらったのも納得です。おめでとうっ！ 特別賞：細田賞 イチオシフレーズ：「ナルシストの皆さん。」「自分にほれ込んで死ぬ覚悟はおありですか??」		
A06	子どもに戻りたい大人、大人になりたくない子ども	12 pt	2 位	0 sp

		ひとつひとつ、着実に考えてゆく地道さが、しっかり共感と呼び込んでの価値ある二位でした。 二つを対比したところから論理展開をした着想とともに、終わり近くできちんとまとめを行っている律儀さも良さですね。 ただ、結論がちとありきたりだったか。大人/子ども両方の立場から複眼的に何か問題提起できると、よりふくらみが出たように思います。			
A07	UZUMAKI	<table><tr><td>10 pt</td><td>4 位</td><td>1 sp</td></tr></table> くるくるくるくる恋心は転がってはいえんど。 なると、へ行ったところが意表を衝いて、すてきに楽しい仕上がりでした。ういういしい感情の描写もこなれていて好印象。 ただ、ストーリーの「場所」と「時」が不明です。文化祭間近。教室？ 食堂？？ それにしても、前回のプリングルスといい、なぜに賞品のネタ元は無念の4位なのかなあ。。。 特別賞：ニヤニヤしたで賞 イチオシフレーズ：「うどんには正直カマボコの方が合うと思う」「やっぱカマボコよりなるとだ。」	10 pt	4 位	1 sp
10 pt	4 位	1 sp			
A08	空	<table><tr><td>0 pt</td><td>11 位</td><td>1 sp</td></tr></table> 「数分前、僕は空気になった。」——この表現がインパクト大。空気になった僕、願い通りに行くはずが……環境汚染と社会問題で攻めてきましたね。 地球が自転している間に、お隣の国の黄色い大地へ流されていったかわいそうな僕、という設定でしょうか。宇宙サイズで発想したのびやかさがGOOD! 短時間で読むセッションでは、なかなか評価の出にくい作りでしたが、それでも「深いで賞」を授与した読みの深い班（A-4班）があったのは、選ばれた作品のみならず、選んだほうもリッチだと思います。 特別賞：深いで賞	0 pt	11 位	1 sp
0 pt	11 位	1 sp			
A09	ちょいと寂しいお話	<table><tr><td>11 pt</td><td>3 位</td><td>3 sp</td></tr></table> 今という人生の時期を一日にたとえた発想が、きれいに効いています。アンパンマンが楽しい。こういう発想って、「自分ならn時だな」と各人各様の想像を誘いますよね。 それだけに、全体をこの発想で一貫させてみても良かったのでは。 特別賞：愛と勇気だけが友達さ賞/しみじみ賞/変換ミス賞 イチオシフレーズ：「トクになし」「アンパンマンまだー？」×2「大事にしたたアンパンマン号もアルバムの中にしか現れない」、アンパンマンのおかげでイチオシフレーズ大賞ゲットです。	11 pt	3 位	3 sp
11 pt	3 位	3 sp			
A10	天敵——朝	<table><tr><td>7 pt</td><td>6 位</td><td>1 sp</td></tr></table> そこまでやるんだアヒルの計量カップ。 タイトルだけでなかみの想像が付いてしまうのに、すてきに愉快地読めるのは、工作の苦心がリアルに語られているおかげだと思います。このリアルさ、実体験と推定。 特別賞：努力賞 イチオシフレーズ：「あら、まだいたの？」	7 pt	6 位	1 sp
7 pt	6 位	1 sp			
		<table><tr><td>10 pt</td><td>4 位</td><td>0 sp</td></tr></table>	10 pt	4 位	0 sp
10 pt	4 位	0 sp			

A11	中高生の日	「どなる」が秀逸。動詞の意味がころころ変わるところが楽しかったです。 せっかくなので、大学ヴァージョンを聞いてみたい気が。1年後でよいので。 イチオシフレーズ：「まだまだ眠くなる・ん・じゃ・・Zzz」 「Zzz」
A12	課題。	7 pt6 位7 sp 「午前3時」のところで、まだ間に合うじゃん！ というツッコミ待ちの体制を整えた策士でしょうか。 せっぱ詰まった感は狙ったのですが、やや淡泊か。もっとジタバタ感を漂わせたい。 それでも連休明けのフロアのムードをしっかりと味方に付けて各賞総なめ！ の快挙でした。おめでとう。 特別賞：マイブーム賞/短いで賞/よくやったで賞/ナルシスト賞/短かったで賞/シンプルで賞/今日はコレで賞 イチオシフレーズ：「午前3時」「なるようにならないと困ります。」

[Bの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数 まじょコメント	順位	特別賞
B01	成る	15 pt2 位0 sp 来ました将棋ネタ。駒のひとつひとつに生き方を反映させて、きっちり「なる」でまとめて。主張もずっと伝わってきて読みやすいです。 そんな思いがきちんとフロアに伝わって、あまたの技巧派作品を凌駕しての二位ゲット、おめでとう！		
B02	千里の道も一歩から	0 pt11 位0 sp 質問で読み手を引き込むの工夫が光りました。こうすればカタイ話題でも、読者が実体験を振り返りつつ参加してもらいやすいですね。 ただ、せっかくの質問が後半の主張にうまくつながっていなかったところが改良の余地ありか。		
B03	お金のなる木	11 pt5 位1 sp うわあ、怖くて巧い！ 茶色い実にぞくっ!! すばらしいです。 何でもお金に換算してしまう世の習いを寓話として皮肉ったのかなと推量しつつ、でもそんなさかしらな意味づけはいつでもよいくらい、すてきにおもしろい！ 特別賞：Kくんに同情で賞		
B04	七時半の舞台裏	4 pt8 位3 sp ショッカーですかそうですか。(←調べないとネタが分からなかった旧人) 冒頭が引きつける巧い書き出しですね。妙に細かい数字がリアル。 本文のどんでん返しは、もう少し撮影風景とかを描き込みたかった。 特別賞：ショッカーで賞/裏のヒーロー賞/ショッカーで賞 イチオシフレーズ：「イーッ」「若さで駆けろ！」		
B05	星になる	2 pt9 位2 sp 悲しいストーリー。悲しいから小さい文字で、ということもないのでしょうか。もう2ポイントくらい大きくしたほうが良かった。印刷って、どうしても字がつぶれちゃうので。 「生と死の境目のあっけなさ」を語ったところが、ぐさりと印象的で、実体験なのかな、全体に気持ちがいっしょに乘った言葉たちでした。それだけに字の小ささがほんとにもったい！ 特別賞：☆賞/アウトローで賞 (←ハムスター好きが班にいたので、だそうな)		
B06	近代人類の進化	20 pt1 位5 sp わはははは。よくぞここまで組み立ててブラボーです。 もう最初のルイージから持っていって、さいごまでテンションとぎれず。ネタ師の今後に大期待。 特別賞：廃人賞/がんばった賞/特別賞/発想が奇抜で賞/新人（ニート）賞 イチオシフレーズ：「類人猿（ルイージ）」×7 「新人（ニート）」×2 「世間で決して主役（マリオ）になれない存在である」と驚異的なルイージ人気でイチオシフレーズ大賞も受賞。 おお、首位のみならず、特別賞×5、イチオシフレーズ×10と三冠達成、史上初の快挙です。おめでとう!!!		
B07	ねがわくば	1 pt10 位0 sp 神さま神さま、小さなお願い、丸ゴチックのいじらしさ。 自分よりとてつもなく大きなものを思う事で、少し上を向ける気分になる。そんな心が飾り気なく語られて、応援したくなる素朴なあたたかさでした。		
		12 pt4 位0 sp		

B08	びわの実	「ババアは嫌なババアだったってことは忘れないようにしよう」――このくだりがすごい！ と驚嘆しました。たしかにね、死者をむやみに美化するのではなく、嫌なものとして、自分自身の思い出のカタチのままにしっかり記憶する、それこそが死者への最大の尊敬と言えそうです。 情景描写も味覚の演出もすばらしい仕上がりだけれど、何よりこの一節にぞっこんなのでありました。	14 pt	3 位	2 sp
B09	中央線通勤快速	ああ中央線。また急停車。 ヒトゴトと思っていたらグサリ。日常に闖入してくるラスト1行の重みに圧倒されます。 小見出しのようにダッシュでつないでゆく語りの工夫もうまいなあ。 特別賞：文章力賞/独断賞	0 pt	11 位	0 sp
B10	危機	なんとかなるさ。明るい響きの中毒性セリフ。 実感こもって語られて共感を誘うのですが、できればラストにツッコミセリフも「なる」でまとめたかった。そんな小工夫で、全体の好感度がぐっと上がると思います。	6 pt	6 位	0 sp
B11	イン・ザ・ルーム	きっとね、彼と彼女をプラスして101匹って、そういうことだよね、とTAさんたち大騒ぎ。 爆笑また爆笑のネタ尽くし。おみごとでした。 イチオシフレーズ：「!!!!!!?」「あたしに逆らったら焼き鳥だぞ☆」「落ち着けねえ――!!!」	5 pt	7 位	2 sp
B12	銅線のかなた	ロマンティックに見せかけて、ラストも実はネタ。「彼女への電話」にころりとダマされました。くやしいことに。クラムチャウダーにしてやるっ。 特別賞：裏切られたで賞/落ち賞			